

第5回長野市幼児期の教育・保育の在り方検討委員会

○ 日 時：平成28年1月22日（金）午後2時～4時

○ 場 所：長野市役所第一庁舎7階 第二委員会室

○ 出席者：委員10名、事務局 12名

1 開 会

2 議 事

（委員長）これより第5回の検討委員会を開催しますが、議事に入る前に長野市執行機関の附属機関の設置等に関する条例6条2項の規定に「附属機関は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。」とございますが、今日は全員出席をいただいておりますので、会議が成立していることをお伝えします。

次第に従い長野市の幼児期の教育・保育の指針素案について議題とします。

今回の委員会の議論、年度内の最後ということで、結論を出すことになっておりまして、今まで議論いただいてきた素案が確定しますと、パブリックコメントを実施する予定ですので、その旨含めてご承知おきいただきたいと思います。

今日は主に二つポイントがあると考えられますが、一つは長野市らしさをどう考えるか、打ち出していくかという問題。そのことについて最初、事務局からも考えを示していただきながら議論をしたいと思っています。

二つ目は、これまで乳幼児期の基本方針と取組の方向性について、色々と皆さんのご意見を反映させ、修正がありますので、その内容についてまたご意見をいただきながら確認をしていきたいと思っています。有意義な議論ができることをお願いします。

それでは資料について、事務局から説明をお願いします。

<資料1について事務局より説明>

（委員長）ありがとうございます。だいぶ多方面に渡るわけですけど、始めに申し上げましたように、最初に長野市らしさというところで、18ページの3章の前のところまでで一旦区切りますので、皆さんの方からご質問やご意見、もっとこうすべきではないかというようなこともあれば、ぜひ。最初に17ページまでのところで率直にお出しいただきたいと思っています。いかがでしょうか。

では、もうちょっと細かく区切ります。7ページ8ページ辺りのところは色々前回もご覧いただいて話をしてきたところですので、9ページの乳幼児期の育ちと関わり方の色々な表現とか、内容についてご意見、或いはこういう視点をもっと入れた方が良いとか、何かありましたら、9ページ辺りまでを中心をお願いします。いかがでしょうか。

前回までの話で遊びとか生活とか、そういう問題をだいぶ議論しまして、でも遊びも子

どもの生活もそれぞれ大事であるという中で、そういうことを土台にして生きる力の基礎力を作っていくんだという、そういうまとめ方で整理をしていただいたというのがこの図だと思うんですけど、それでも分かり難いとか或いは何か違和感があるとか、率直にお出しいただいた方がいいと思うんですが、いかがでしょうか。どんなことでも結構です。

(委員) ちょっと表現がこれでいいのかなと思うところを先に。7ページですけど、大筋は特にいいかと思うんですけど、よく分からないな、分かり難いかなと思うところで、7ページの下から2行目ですけど、後半、後ろの方で「心情的なものも取り入れてくることから」とあるんですけど、ここがごっこ遊びの中で心情的なものも取り入れてくるというのが、普通の人を読んで分かるかな、ちょっと意味が分かり難いかなと思うことと、あと8ページのところです。ここもだいたいなんとなくは分かるんですけど誤解があるといけないと思って。8ページ1行目の最後のところから「言葉のやり取りを誘導し」という言葉がちょっときついかなと思って。「やり取りを促す」くらいの言葉遣いの方がいいと思いました。「遊びを盛り上げる」という言い方もどうなのかなと、ちょっと引っ掛かる場所なんですけど。

それともう一つ、8ページの真ん中なんですけど、ここは理解不足もあるかと思うんですけど、子ども達の観察というのは「人」から「もの」への観察でよろしいのでしょうか。なんとなく「もの」から「人」へ興味が広がるというイメージでいるんですけど。ここが「人」から「もの」へでいいのかどうか。何か根拠があればそれで結構ですけど。

(委員長) ありがとうございます。今、委員さんから三点ほど、7ページの一番下の2行目辺りの心情的なところと、8ページの2行目の誘導という言葉、それからその下の3行目の子どもの観察は「人」から「もの」へという、その辺りが少し分かり難い、或いは違う言葉でというご意見だと思います。そこを含めてもう少し、その文章の方も、それから9ページの表も含めて、ご意見を出していただければと思います。

(委員) 表のことですけど、前の文章をまとめた形の表だろうと思いますけど、これは一番は生きる力の基礎の形成の図だと思うんですけど、全体が矢印になっていますよね。それで一番最後に黄色い帯があって、「情操・人間性・健康・体力」がどうなるのということだと思うんです。ただ羅列しても。例えば情操・人間性・健康・体力の充実だとか。またはこの言葉ではなくて、こういうふうにやることが生きる力の基礎の形成、という文章の方が分かるような気がするんです。

矢印があって、ここに四つあるのが一体これがどうなんだと。これが育成されるのか。この言葉ではなくて違う言葉、または付け加えた方がいいような気がするんです。

(委員長) 矢印の意味ですか。意味と言うかタイトルのこととかいうか。

(委員) といいますか、矢印の結果が黄色い帯なんですよ。この結果、黄色い帯「情操・人間性・健康・体力」が一体どうなればいいのかということです。それが言葉が加えられればいいな、と思います。例えば体力の充実だとか、またはこの言葉でなければ、こういうふうにして生きる力の基礎の形成がされる、そういう言葉の方がいい気がするんです。

(委員長) そこは皆さんどうですかね。この表から伝わってくるものをどう読み取るか、そういうことだろうと思いますけど。

(委員) 乳幼児期の育ちと関わりという9ページの、とても分かり易い表だと思うんです。今の黄色の帯の件ですけど、そのあとの長野市らしさ、目指す「しなのキッズに育まれる力」そこに四つほど項目、到達する、目指すものみたいなものがある。そうなるとその二つ、17ページと9ページを、無理に結び付ける必要はないと思うんですけど、ある程度連関はしている。こういう育ちをしていって、こういう力が育まれる。自律力だったり実践力だったり未来力だったり絆力が、ということ連関する。長野市らしさという議題の中で目標としているものが、こういう発達をしていって、それを大人がこういうように関わっていくと、こういう力が育まれる。そこまで具体的に言い切れるものではないと思うんですけど、なにか薄々でも連関していたら、全体が、そのページが完結するというよりは、連関していくのではないかという気がします。

(委員長) ありがとうございます。今、委員さんがおっしゃったようにこの9ページの表と17ページの関わり方、それもかなり大事だと聞いていて思いました。17ページの下、基本的な3つの視点の下にあるような部分の内容が、9ページのタイトルのなところの、遊びや生活というところに位置付いているのかなとは思うんですけど、両者の関わりをなにかもうちょっと鮮明にする必要があるのかどうかということかも知れません。

(委員) これ、とても良い図だと思うんです、分かり易くて。これを見ていて、17ページと9ページの関わりはどうかかなと思って。先程も矢印の後が生きる力の基礎の形成ではなからうかと思っていたんですけど、これが結局、9ページが基になって、その上に17ページがあると捉えれば、非常に分かり易い。そうなる9ページの一番最終的な、黄色い帯の「情操・人間性・健康・体力」というのが、結局17ページの一番下の「遊び」や「生活」を通しての生きる力の基礎力の育成」になるんだろう。

(委員長) それを無理して繋げる必要は無いけど、そういう関わりがあるという説明が大事ですよ。その辺何か事務局の方でお考えありますか。

(事務局) ご意見ありがとうございます。今の9ページの最後の黄色い帯のところですが、この図の一番の表題である「遊び」や「生活」を通して、生きる力の基礎力を育成します。」というのがありますので、ご意見をいただいたとおり、生きる力の基礎力の育成と黄色いところは直させていただきます。おっしゃっていただいたように、まさに17ページの一番下の基礎の部分がそうなっていますので、そういう形に直させていただければと思います。

(委員長) もう少し9ページ辺りまでのところで、先程委員さんからもありましたような、ちょっと言葉としての分かり難さも含めて出しておいていただいた方が、最終的にまとめていくところで反映できると思いますが、いかがでしょうか。

(委員) ちょっと誤解を生むといけないと思うところで、8ページの最後なんですが「集団として行動ができるための工夫」ということで、例えばこれ、普通にお母さん方が読んだ時に、集団行動が取れないと、全体行動が取れないというふうに誤解を受けやすいところだと思います。だからこの集団という言葉、どう置き換えたらいいかと考えているんですけど、例えば周りの人を意識しながら動けるとか、結局同じことではあるんですけど、ちょっと集団を意識した行動という言葉がきついような気がして、少し工夫していただけるといいのかなと思います。

それともう一つ、9ページの今の図の上、一番上の行ですが「身近な大人の愛情に支えられる中で「遊び」を通して様々なものに関わり、また、日常の「生活」の中で様々な体験を重ねることで」ということで、ちょっと分かり難いと思って、遊びや生活を通して様々なものに関わり、体験を重ねることで、と繋げた方がスムーズではないかと思いました。

(委員長) 今のご意見は9ページ一番上の3行目の「遊び」と「生活」をもう少しくっつけながらというような表現ですかね。そうやって分けて長くなってしまうのではなくて、遊びや生活を通して、というような形にした方がどうかというご意見。

そうしましたら、9ページ辺りまでのところ、もう少し細かく検討して最終的にやっていくことにしたいと思います。後で戻りますので、先の方へ進みますがよろしいですか。

10ページ11ページは参考資料ということで説明文を少し入れるということで、12ページ13ページも今の長野市らしさというところで文章的にもだいぶ新しい内容、今まで議論してきたことも含めてですが、12ページから先程の16ページ17ページ辺りまで、何かご意見、分かり難いところあればお願いしたいんですけど、いかがでしょうか。

(委員) 13ページ一番下の「聴いて、話して、分かち合おう⇒(絆力)」のところですけど、一番上に「戸外で群れて元気に遊ぶ。」という表現があります。敢えて「戸外で」というのを入れる必要があるのかどうか。ここで大事なのが「群れて」、そこが一番大事だと。

体力とかそういったことを大事にするのであれば「戸外で」という言葉が必要だと思いますけど、ここはこういった言葉は必要なのだろうか。もっと変えるとすれば、たくさんの友達とか、異年齢だとか、色々な年齢の友達と、というような言葉の方が「群れて」ということによく繋がるのかなと思いました。表現の問題ですけど。

(委員長) ありがとうございます。今の委員さんのご意見は13ページの一番下の方の「群れて元気の遊ぶ」というところに、例えば、異年齢の子ども達との中でとか、関わりながらというか、そういう表現の方がもうちょっと具体的で、子ども同士が群れて遊びながらという辺りが押し出し方としては大事なのではないかというご意見だと思います。

いかがでしょうか。この辺がどう長野市らしさを出していくかということに関わることなので、ぜひ色々な言葉の表現の問題とか、やはり地域性は大事ですので、もっとこういう表現を入れた方がいいとか、あればお出しただければと思いますが、どうでしょうか。

(委員) 今の委員さんのことと関わるんですけど、今、幼保さんで外でたくさん遊ぶことをやっていたいたり、市でもそういうことで力を入れていただいていることは、小学校にとってはたいへん嬉しいことです。体力という面でも長野市の小中、課題として取り組んでおりますので、幼保もそういう意味で取り組んでいただくというのは嬉しくて、委員さんの意見もあるんですが、やはり戸外というか外でたくさん遊んでいただけるということは、本当に小学校にとってはたいへん嬉しいことです。

(委員) 16ページですが、黒ボツの一番上ですが「家庭においては、スキンシップを積極的に取るなど、子どもとしっかり向かい合うことができる親子のふれあいの深い家庭づくりに努めます。」という、行政側が努めていくという考え方なのか、支援していくという言葉がよろしいのか。ほかを読んでいくと、やはりそういう、環境を作りますとかそういう言い切っているところがあるんですが、家庭作りのところまで「努める」という言い方がどうかと思うので、ご意見なにかあったらお聞かせいただけたらと思います。

(委員長) ありがとうございます。今、16ページのところです、ご意見出ているんですが、もう少しその辺どうですか。他の角度から見た時に、家庭との関わり、或いはその前からもずっと続いてきていることで整理がされているわけですけど、追加でもしご意見あれば、ぜひお願いしたいんですが。

(委員) 15ページの大きなア、イになっていますけど、15ページ一番下のイですけど生きる力の基礎を育むために取り組みたい項目、この項目が全部で五つあるんですけど、この五つと、ちょっと戻りますけど7ページの乳幼児期の育ちと関わり方、これ先程も話したように生きる力の基礎力の育成に関わってくるところだと思いますけど、ここの五つ

の部分とある程度のリンクは考えていますね。だいたい出来ているかなと思っていますけど。そこを意識しながら取り組みたい項目、選んでいかればいいかなと思いますけど。だいたいリンクしているからいいかなと思いますけど。

(委員) 似たような視点ですけど、13ページに四項目書かれている中で、例えば、全て7、8ページのところに説明がありますのでリンクはしていると思うんですけど、自律力のところに「きまりや約束は守る。」とかあるわけですね。それと9ページの育ちの図表の中で、では0歳から6歳の中です、世の中にルールとか決まりとかあるというのを了解するのはいつ頃なのだろうとか、これはしなのキッズの到達する目標というか、だから、子育てしている中で、ルールのまだ理解が出来ない子にルールを押し付ける、これは当然いけませんので、なにか、どこかで、この図表の中で、1、2で結構だと思うんですけど、決まりや約束を意識した行動が始まっていくですとか、或いは絆力のところ、相手の思いや考えを受け止めたりするという、では相手がどんな心持ちでいるのか、心でいるのかというのを推論するような思考というのは、当然だいが後の方になるわけですけど、相手のことを考えなさいとか考えられないの、と言われるのは当然自己肯定感が育たないわけですけど、その辺りがどこかで少しでも結構ですので9ページにリンクしていると、なにか繋がりがあるのかなというように。無理に入れる必要は無いとは思いますが、そんな感想は持ちました。

(委員長) なにか友達関係というだけでも無いし、自分と他者とか、そういう相手の立場とかそういう問題ですかね。その辺は幼稚園とか保育園の実践の中で、例えばどういう中で他の子のことを考えられたりできるようになったとか、具体例みたいなのはありますか。

(委員) 玩具の貸し借りだとか、同じ物が欲しがっている。年齢にもよりますが、聞いてみると、クールダウンしていく中で、A君もこれで遊びたいと思っているんだよね、B君も遊びたいと思っているんだよねと聞いてみると、素直な子は、やはりまだ3歳くらい、人によっても違いますが、いや相手は遊びたいとは思っていない、僕だけが遊びたいと思っていると言い切った子がいますし、素直だなと。そこを理解していくにはちょっと時間が掛かる子もいますし、向こうも顔色を見て分かる子もいるしというところだと思うんです。

遊びを通して貸し借りがスムーズにできるとか、向こうも欲しがっているということを理解するとか、転んでしまって泣いている子を、共鳴したり共感するということはずいぶん早くから進んでいくと思いますけど、その心の内を言葉として理解していくとか言葉で表現できるというのは、だいが後の方になってくるのかなみたいなことは感じています。

(委員長) その辺もう少しどうでしょうか。人間関係みたいなそんな話。結構大事な部分

だと思うんですけど、そういったことをどうやって表現をしていくかということだと思うんですけど、どうでしょうか。

(委員) 今、子どもの絆力というところで、やはり相手に対する思いやりということはすごく絆力の中の大事な心持ちだと思うんですけど、その中で異年齢というのをすごく大事にしてきたんです。兄弟が少なくなってきたら、年齢の違うところによってどう相手と力を合わせたり、かばったりしながらいくかという力が、すごく育つということを実践の中で感じてきたことと、あと今は障害を持ったお友達が一緒に生活する場面が多いので、そういうお友達ともどういう心持ちで絆をつくっていくかという面も入れていただけたらいいかな、やはりこれからの時代に必要なことではないかと感じます。

(委員長) もう少し今の15ページ16ページ辺りまでのところで、多少前後しても構いませんけれど、特に今の点で言えば13ページの「かがやく笑顔で げんきに遊ぶ しなのキッズ」の下の役割の「げんきに遊ぶ」のところに、遊びを通して友達関係や人間関係を築く姿というものが、げんきに遊ぶというのがそれを表しているんだという表現があるわけですけど、その辺のところということでしょうか。どうやって他者に対する思いだとか、思いやりだとか、友達との関わりを持とうとするようになるとか、その辺りのところがもうちょっと何かあるといいのかなとお伺いして思いました。

(委員) 13ページ14ページのところですけど、しなのきプラン29のC学力、自律力・実践力・未来力・絆力と書いてありますよね。この順番で13ページの丸付けてあるんです。14ページの参考のところ、この順番でもいいんだけど、同じ順番にした方がいいような気がするんですけど、どうですか。

(委員長) 14ページの表のところが分かり難いということですか。

(委員) 分かり難いではなく順番を13ページと合わせた方がいいのではないかとということです。

(委員長) ありがとうございます。他にはどうでしょうか。特に13ページ辺りのこの「かがやく笑顔で げんきに遊ぶ しなのキッズ」という、そういう括りでぴったりくるでしょうかということだと思います。長野市らしさという辺りのところが。大丈夫でしょうか。

(委員) 13ページの四角の中のしなのキッズですけど、ここがちょっと文章が分からないなと思って。「知・徳・体」のバランスの良い発達で切れているんですけど、ちょっとここ意味が読み取れないなと思ったことが一つと、あと、しなのキッズ、キッズですの

で就学前の子ども、6歳7歳までの子どもと考えていいわけですよ、この場合。でなくともっと大きな子ども達も入るんですかね。小さい子ども達。しなのキッズの、この指針というのが6歳くらいまでの子どもとなっていると理解しているんですけど、そうするとこの「知・徳・体」というのが、これ小学校以降のことかなと思うんですが。

(委員長) 事務局なにかその辺ありますか。その年齢的なこととか、就学辺りの。

(事務局) 基本的には6歳までの指針です。今のしなのキッズのところ、ちょっと文章が切れてしまっている部分で読み難い部分があったのかと思うんですが、要は「知・徳・体」を育てるのは、当然7歳、小学校以上ですが、その成長を果たすための根を、その土台を張り巡らしていく姿ということで、当然「知・徳・体」を6歳までに身に付けられるものではないので、そういった発達をしっかり支えていくための根を張り巡らすということでございます。

(委員) 13ページですけど、色々なところに出てきますけど、子どもが自己肯定感という、その自己肯定感と言葉が、もっといい言葉があればなと思うんです。ちょっとこれ理解に苦しむ部分もあります。

それから15ページ、下の枠の中の下から3行目ですけど「また、遊びや活動の中で」ですけど、よく色々な場面でお母さん方と話をしても、遊びや「行動」の中でとそういう言葉が使われるんです。活動ではなくて行動。遊びや行動という。

(委員長) 委員さんから指摘された13ページのかがやく笑顔の、自己肯定感ですけど、資料2の用語解説、ちょっと見ていただきますと1ページ目の裏の下の方に「自分のあり方を積極的に評価できる感情、自らの価値や存在意義を肯定できる感情などのこと」と一応用語の解説をしていただいているんですけど、委員さんとしてはこの言葉、難しさがあるかもしれないというご意見だと思うんです。その辺は皆さんどうでしょうか。

もっと大きな子ども達の間でもそうですけど、自分に対する、自分ってこういう良いところがあるとか、月並みな言い方で言えば自信を持つとかそういうところが、本当に今、弱くなっているというところで、保育現場や教育現場の中でわりと用いられている表現だと思うんですが、もしかしたらそれが一般的には、委員さんご指摘のように難しいという印象があるのかも聞きながら思ったんですけど、その辺もう少し、大事な部分だと思いますので、ご意見を出していただいたほうがいいと思うんですが、どうでしょうか。

(委員) 悪くはないんですけど、もう少しなにか違う言葉があればいいのかなと。

(委員) 漢字ではないソフトな言葉があればいいなと思ってはいるんですけど。保育の現

場ではわりとよく使う言葉ですし、就園してきているお母さんやお父さん、保護者であれば保育園便りだとか幼稚園便りだとか、折々の中でわりと使われる言葉で、理解はされて、就園していればですけど、という感じは持っております。

(委員長) たぶん保育や教育現場の立場の人間としたら、あまりにもいつも繰り返し使っている言葉なので、一般の市民の方々から見て、なにかちょっとそれって難しいのではないかという印象があるのかなと思いつつ聞いたんですが、そこはどうでしょうか。

少し難しいんだけど用語解説を入れながら伝えたいというのが私達の思いかなど思うんですけど。いずれにせよ、もし皆さんの方でなにか感覚的なことであれば、折角なので。

実際、小学校辺りの子ども達で、自信といいますか、そういう自分に対する感情ということで、結構課題がありますか。

(委員) やはりあります。自己肯定感は学校の方も一般的に使っている言葉であるので、でも委員さんの話を聞いて、そうか、そうすればどうすればいいかなと。やはり用語解説を全てのところに付けていただくと、戻ってまた理解いただけるのかなと思っております。

(委員長) また他の件も含めてですけど、色々用語解説を活用しつつ特に何か変わった表現が見付かれば、今のご意見、大事なことだと思いますので含めていくということで。一応用語解説を加えながらという形でご意見いただければと思いますけど、よろしいですか。

他に16ページ辺りまでのところで、いかがでしょうか。前半部分、先程のところまでを振り返っても結構ですので。

そうしたら3章のところに入りますが、よろしいでしょうか。

では、18ページ以降の3章のところ、これはこの間以来、色々議論をしたところを盛り込んでいただいた部分ではありますので、少し分けながらいきたいと思っております。最初に18ページから22ページ辺りまでのところで区切りながら、それでもここがもう少しということがあればお願いをしたいんですが、いかがでしょうか。

(委員) 20ページですが、I-2のところの四角の現在の取組というところ。「専門の体育指導員等の」とあるんですが、2011年にスポーツの基本法のところで改定になって、スポーツ推進員という、体育指導員という言葉が無くなって、ちょっと間違いづらいいかなということをおもうので、もしかしたら専門の体育指導を受けとか、何かちょっと変えた方がよろしいのかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

(委員長) 今のご意見、20ページのI-2の取組の方向性の、現在の取組の1行目のところの体育指導員等というところ、もう少し表現を適切にした方がいいというご意見ということでよろしいですか。他にいかがでしょうか。

(委員) 同じところで、運動と遊びのプログラムのことですが、前々から引っ掛かっていたところでお聞きしたいんですけど、前の委員会の後で新聞記事が出ました。その新聞記事、残念ながら読むことが出来なかったんですけど、他の人からこの指針では柳沢運動プログラムをわりと全面に押しているのかと聞かれたんです。要するに運動プログラムのこのことだと思うんですけど、それを全面的に押している指針なのかと聞かれて、何のことですかと聞いたら、新聞記事にそんなふうに乗っていたものだからと言われて、ちょっと驚いて、いやそれは違うと思います、中にちょっとそんなようなこと少し触れているけど、そんなに全面的に押しているものではないと私は理解しています。と、その方とは会話をしたんですけど、実際にそここのところというのはどうなのでしょう。

それで、ちょっとネットで長野市の指針というのを入れてやると、基本的なところ、前の方に書いてあるようなことがあって、やはり柳沢運動プログラムというのが出てくるんですけど、ちょっとそこに違和感を感じているところがあって、今頃になって確認になってしまうんですが、そこはいかがなのでしょう。

(委員長) 取組の運動と遊びのプログラムの推進ということを巡って出されていることなので、2人の方からそういうご意見なり出ていますので、まず委員さんの皆さんの方で受け止め方と言いますか、ちょっとあったら率直なところを出していただいた方がいいかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

それぞれ具体的に各幼稚園さんなり保育園さんなり、公立や私立、それぞれ運動や遊びに関する自発的なといいますか、そういう様々な先生方のお力を借りながら保育の実践ということは、すごく積み上げることは大事なことで、現状そういうことでおやりになっていると思うんですけど、そういうそれぞれの主体的な積極的な取組ということ、もちろんお互いに学びあうということは大事な部分だということは、私も今のお話聞いていて思ったんですけど、その辺は委員の皆さんなにか考え方ありますか。

(副委員長) 今、柳沢先生のお話が出たんですが、柳沢先生、平成12年13年くらいから柳沢運動プログラムというものをずっとやっていたら先生なんです、その当時から主に長野県全体で、公立の保育園さんに行ってそういった運動プログラムをずっと続けてれている先生なんですけど、学園でも平成15年16年と、2年間に渡って運動プログラムを、先生達への指導をやっていただいたんですけど、年間5回やって2年間で10回の講義を受けましたけど、運動の嫌いな、苦手な子が増えているという中で、運動が好きになるように動物の真似をして、例えば熊さんになってとって四つ足で歩いたりとか、そういう動物をたとえて基本的な運動をやることで、そういう嫌いな子でも、動物に変身してやれば楽しんでいるということから始まったものなんです。そういうことが結構色々な研究会、研修会でやられているので、そういうイメージがあるからではないでしょうか。

(委員長) はい、そういう形で公立保育園さんとかいくつかの幼稚園の中でも取り組みはされてきているという現状なわけですね。ただ、それはそれぞれ大事にしあうということは、学びあうというか、そういう捉え方はいいと思うんですけど、何かその点の、先程委員さんおっしゃったこと、もう少し何か説明があった方がよろしいですか。

(委員) ちょっとここ、全市で取り組んでいますということなので、そんなふうに取り組まれているのであれば、あまり色々言うのもと思って控えていた部分ですし、柳沢先生も直接講演会などお聞きして、優れたプログラムであるということは承知しています。ですので、現場の中で自主的にこういうものを取り入れていくことには、それはその園の考え方ですし、けっしておかしなプログラムでもありませんので、むしろ素晴らしいものだと思いますので、いいと思うんですけど、ただ一応文科省の方で運動遊びについてのガイドラインが出ていて、それは何か特別なプログラムに取り組むことよりも、戸外で活発に遊んだ方が色々な運動機能とか、運動能力が高まるというような考え方でガイドラインが出ていたと思うんです。そういうものも踏まえていくと、やはり一つのプログラムを市が、長野市の指針なので、そういう中で押していくというのはまずいのではないかと思います。ですので、こういうプログラムがあるという紹介くらいはいいですし、それぞれの園が取り入れるのも、それに対して色々言うつもりも全く無いんですけど、市から出ている指針の中で特定のプログラムを押すようなニュアンスが伝わるとすれば、ちょっとそこは問題があるのではないかなと思います。誤解を受けるとしたら少し表現を変えた方がいいのではないかなと思います。

(委員) これは他の私立の幼稚園やなんかは使っているんですか。

(委員) やっているところもありますね。

(委員) やっているところもある。やっていないところもある。

何故こんなことを聞くかという、これを全て乳幼児期の子ども達、私立幼稚園であろうが市立であろうが、ということで出すものであって、だから、取り組んでいないところもあるわけ。ですから、取り組むこと自体は悪くはないけれども、そこはこういうプログラムを取り入れています、取り入れているところもありますよ、くらいな少し広い表現にした方が全部を網羅できるといいますか、包み込むことができるのではないかなと思います。遊びと運動というものを上手に取り入れて発達させるというのは非常に良いことだと思いますけど、特別なプログラムというような限定した表現ではない方がいいような気がします。委員のお話を聞いてそう思いました。

(委員長) 運動や遊びに限らず、それぞれの公立保育園や私立保育園や幼稚園、それぞれの考え方に基づいてそうやって身体作りをするということは、全く、それぞれ自主的、自発的なことなので、そういうことの中で、ずっとこの項目はそう捉えてきたんですけど、今のような議論のこと、何か事務局で説明とか必要でしたらお願いしたいんですが。

(事務局) ありがとうございます。柳沢という先生の名前を落として表現していることも、内部で話をして落とそうということであるんですけど、ここの4行目のところに「全市で幼・保・小の連携による」という部分がございます、私立の保護者の方や園児も含めた中で、一緒に小学校に行って、小学校3年生くらいまでの方たちと、教育委員会と本当に連携が上手く取れておりまして、一緒にそういう運動のプログラムをやることによって様々な、小学校は一つの保育園から全部行くわけではなく、色々な保育園や幼稚園の皆様が集まってきますので、そこで集まって、親にも運動の大切さや遊びの面白さを見ていただくということをやっているんですが、それも含めてこういう名称にしたんですが、実際に使っているのが柳沢先生のご指導を受けているもので、ここが、プログラムという言葉、見方によってはストレートに見えるかもしれませんが、後半に書いてある市立の保育所では年3回やっているんですが、今年始めたものですが、未来永劫やっているわけではなく、長野市も予算に限りがありますので、サンセット事業といって期限があって、今のところは2年とか、そういうところで保育士達はそのやり方を真似て独自に変えていくという方向を持っているものでございます。将来的には柳沢先生のものは基礎にありますけど、自分達らしく工夫をして次の世代にも伝えていくつもりで計画しているものでございます。それを受けて表現をもう少しトーンダウンした方がいいということであれば、直すことももちろん可能でございます。

(委員長) 今ちょっとご説明ありましたので、基本的には何か特定の保育の方法をやるべきだとか、そういうことを言っているわけではないということは、もちろんはっきりしているわけで、そういう中で色々周りでお考えになる人がそういうふうにお考えになることはその方の考え方だと思うんですけど、ここは指針作りですので、公立、私立、保育園、幼稚園問わず、運動や遊びのプログラムを推進するということが大事だということ言えば、この表現で別に支障は無いと思っているわけです。周りでは色々な、そういう報道があったということではあります、その基本さえ確認すればいいのではないかと思うんですが、よろしいですか、この点。

では、少しそれ以外の部分も含めまして、22ページくらいまでのところでどうでしょうか。少しご意見なり補足なりお願いできればと思いますが、どうでしょうか。

では22ページ辺りくらいまではよろしいですか。

それでは23ページから26ページくらいまで見ていただいて、前回色々ご意見の中で、修正、補足をちょっと付け加えていただいたところですが、いかがでしょうか。

26ページのこの用語解説のおひぎで絵本事業というのはブックスタートとして市ではもうずっとおやりになっているということですか。

おそらく当事者はそれは分かっていると思うんですけど、そういう取り組みをしていることを、こういう中にきちっと謳うことは大事ななと思ったんです。

では、27ページまで見ていただいて。だいたい前回の色々ご意見等を加えたところで表現をしているので問題は無いかなと思うんですが、27ページ辺りまでよろしいですか。

(委員) 今のおひぎで絵本事業のことですけど、目指す内容の一番下のところに、いわゆる健康教室において保健師さんからの指導が入っているんですけど、同じ時間、同じ場所でやっているんですけど、本の読み聞かせというのはボランティアなんですけど、いわゆる連携がすごく取り難い、保健師さんと。保健師さんはいわゆる身体の発育の問題を中心に捉えて、本を読み聞かせる方は心の発達みたいなことを中心にやっている。それって総合されて保護者の方に伝えていくべきことだと思うので、その辺の連携が取れるような言い回しというか、そういうものが入れればいいのかな。やはり何か市の縦割りみたいなものがそういうところですごく感じて、私達はいわゆる食べることとか寝ることとか終わったから、後はあなたたちよ、みたいな感じで、本の時には全く関係ないけど、すごくそこが、行き来してやはり子どもの総合発達が、と考えると、いつもそこで、ボランティアの中でちょっと不満が出るところであって、何か上手く表現が、もし入れてもらえるのだとすると、健康の面と絵本の面と総合して保護者を援助していきますよ、みたいな形が上手く入れられれば嬉しいなと感じています。

(委員長) ありがとうございます。お互いの連携、情報公開をよくしながらということですよ。

(委員) 同じ場所なので、ここからこっちはこっちみたいな感じではなくて、やはり、読み聞かせをしている中に、うちの子は夜なかなか寝なくて困るんですみたいな相談されるとボランティアも皆子育てとか色々経験があるので、そこの中で話をしたり色々助言をしたりする場面もあるんですけど、保健師さんもそういうところにちょっと一緒に関わりながら、両方で出来るような場面ができればすごく理想的なんだろうと感じています。

(委員長) 大事なところだと思います。そこはもう少し色々な内容に渡ってくるわけで、相談する側は特に、色々な課題を持っているので、そこは追加できるような形を少し考えていただけたらと思います。

他にはどうでしょうか。最後までちょっと見ていただいて、29ページまでご覧いただいて、前回うっかりしていたというようなことを含めて、もし何かありましたらお出しいただきたいと思いますが、どうでしょうか。

そうしたらその前の方の全体も含めまして、もう一回ちょっとご覧いただいて、長野市らしさという辺りの問題と、先程だいぶ時間をかけましたけど、9ページ辺りまでのカラーのところの問題、言い忘れたようなところあれば、どこでも構いませんのでページをおっしゃっていただいて、最後ですので反映をさせたいと思っています。いかがでしょうか。

(委員) 7ページのところで、情緒の安定そして自信の獲得のところの一つ目の段落の真ん中辺りから「泣く」ということが出ているんです。泣くことについて書いてあるんですけど、情緒の安定のここで大事なのは「泣く」だけじゃなくて「笑う」も入っているんですけどと思いつつながら、なんで「泣く」だけなのかと思いつつながら、ずっとここまで言い忘れておりました。9ページの表の中にはちゃんと「泣く」「笑う」、喃語まで丁寧に入れていただいているので、ぜひここは、笑うも大事だし、言葉の発達というのも大事なので、ちょっと言葉まではいかないかもしれませんが、せめて「泣く」に対して「笑う」も入れていただきたいと思います。

(委員長) 今、委員さんの、7ページの情緒の安定のところを「泣く」だけではなく「笑う」の方も、ちょっと考えてみてということで。分かりました。

そんなようなことでも結構ですけど、どうでしょうか。

(委員) 27ページの現在の取組と目指す内容ですけど、修正したところ、とても良いと思います。今のお母さん方はすごく自分の子どもさんを、少子化で大切に育てたいと思いつつながら、どうやってやっていいか分からなくて、地域とか色々なところへ相談に見えたり、子育て支援に地区だけではなくて近隣の方も見えて、すごく大勢参加して下さるから、これは入れていただいてとても良かったと思います。核家族だから、お母さん達も自分ももう長野へ嫁いで来てお母さんとか遠くにいらっしゃるから電話でしか話を出来なくて、地域の祖父母手帳ではないけど、どこかの地区は祖父母手帳があるんだそうですね。それで支援をしていて、昔の遊びとかそういうことを通して子ども達に、昔はこうだったけど今はこういう育て方をしている、違うんですよ、昔の育て方と今の育て方は違うので、そういう良いところを汲んで伝えていくというところで、こういうのを入れていただいてとても良かったと思います。

(委員長) ありがとうございます。今の委員さんの、27ページの真ん中辺りの現在の取組及び目指す内容のところでの、子育てについて地域の中でやっていくということを書いていただいている、たいへんありがたいというご意見だと思います。

他にどうでしょうか。よろしいでしょうか、全体。

(委員) 前からちょっと気になっていて、20ページの一番上の欄の3行目の「五感」で

すけど、五感なんて言葉よりも全身を使ってという言葉の方が素敵だなと思うんですけど。

(委員長)「五感」という言葉よりも、身体全体を使ってとか、その方が良いというふうな。

(委員) はい、その方が良いかなと思うんですけど。全身を使ってとかの方が。

(委員長) 全身を使ってとか、身体全体を使ってとか、そんな形。ありがとうございます。

はい、そうしたらこれからパブリックコメントに入るわけですけど、その前の段階での、特に大きな修正と言いますか、そういうことはここでもよろしいでしょうか。

ありがとうございます。そうしたら今後のパブリックコメント等との関係もありますので、事務局で次第の(2)をご説明いただければと思います。よろしくお願いします。

<資料3について事務局より説明>

(委員長) ありがとうございます。只今、パブリックコメントの実施について、この資料3に基づいて、期間や場所、方法等、それから意見等の検討、また今後の見通し等も含めてちょっとお話いただきましたけど、なにかご質問等ございますでしょうか。

様々な上がってきたご意見に対して把握をしながら、こちらのメンバーでまた検討をするという流れのお話をされたと思いますが、パブリックコメントについてよろしいですか。

ありがとうございます。最後になりますが、その他のところで事務局よりお願いします。

3 その他

(事務局) それでは今後について説明をいたします。パブリックコメントの説明の中にもございましたけれども、今回、今年度の開催としては最終回ということでございます。次回は来年度、28年度の5月、6月くらいを予定してございます。内容ですけれども、今ほどのパブリックコメントの集約結果について、それから今回の指針の素案を案に変えていく、その内容についてご審議いただく、そんな内容になっております。日程の詳細につきましては委員長様と、また今後調整をしまして、改めてご連絡申し上げたいと思います。皆様には引き続きご協力をお願いいたします。

(委員長) ありがとうございます。一応素案について、色々な角度からご意見をいただき、審議いただきました。またパブリックコメント含めてこれからの予定についてお話がありましたので、具体的には来年度になってから、5月以降の開催も考えられていくと思いますけど、今後またよろしくお願ひしたいと思います。

皆さんの様々なお考えということを、必ずしも十分にやり取りが出来たのかどうか自信がありませんけれども、これで年度内の会合は終わりということで、よろしいでしょうか。

そうしたら最後、事務局お願いいたします。

(事務局) それでは、委員長様にはこれまでの進行、ありがとうございました。ここで松坂部長からご挨拶を申し上げたいと思います。よろしくお願いいたします。

4 松坂こども未来部長挨拶

皆様、本当に新年になにかとお忙しい中を、今日ご出席をいただきまして、皆様のご出席いただいて、ご熱心にご審議をありがとうございました。委員長をはじめ皆様から何度かお話出ていますが、一応プラス一回を皆様をお願いをして、今年度、27年度のこの幼児期の教育・保育の在り方検討委員会は一応最後となります。これまでに賜りました皆様の温かなお気持ちや、豊かなご経験から様々なご提案をいただいたことを本当にありがたく思っております。委員長様の穏やかで、しかも思慮に富んだ議事進行を、皆様も本当にそれを受けて色々な角度から、最初自分はこう思っていたけども、また皆さんの意見を聞いてこういうふうな意見も有りだねとか、本当にありがたくて、この会議が終わってからも職員達で至福の時を頂いたねと、子ども達の為に皆さんがこんなふうを考えてくださっていることを必ず活かしていきたいと何度も誓い合って、回を重ねて参りました。皆様のこのご努力に対しまして、本当に心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

まだパブリックコメントも残っておりまして、皆様から色々なご意見をいただいたことに対して、また職員達で考えて、これは活かしますよとか、これは大事なご意見だったけれども委員の皆様のご意見の方のままにさせていただきますというようなコメントを付けて、また皆さんに広報をしながら、最後練り上げていくというのが来年度のお仕事になっていこうかと思っております。

この皆様の思いを必ずや幼児期のことに、実際のことに活かしていく。それからまた、教育委員会との連携の中のしなのきプラン29にも繋げていくということをお約束させていただきます。整いませんけれど、お礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

5 閉会

(事務局) 以上を持ちまして第5回長野市幼児期の教育・保育の在り方検討委員会を閉会といたします。皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。